

1 次の傍線部分の読みをひらがなで
記せ。1～20は音読み、21～30は訓
読みである。

(30)
1×30

- 1 孜孜として研究を続ける。
- 2 師に欽慕の念を抱く。
- 3 尤物として一目置かれる。
- 4 長身瘦躯の紳士が現れた。
- 5 暢達な筆跡が今に残る。
- 6 諸侯に冊封を授ける。
- 7 損失の補填に苦慮する。
- 8 由緒ある神社の禰宜を務める。
- 9 趣味で切手を蒐集する。
- 10 輸送船団を掩護する。
- 11 姦詐をめぐらし人を陥れる。
- 12 国と国とが紐帯で結ばれる。
- 13 極悪人を焚刑に処す。
- 14 座を一揖して立ち去った。
- 15 この椿事を大勢が目撃した。
- 16 遁辞を弄して場を繕う。
- 17 離島で唯一の杏林となる。
- 18 民の家から竈煙が立ち上る。
- 19 鶴九臯に泣き声天に聞こゆ。
- 20 戦を亡いて矛を得。
- 21 どこまでも荊の道が続く。
- 22 彼とは同業の誼で助け合う。
- 23 鎗を投げて猪を仕留める。
- 24 主君に叛いて兵を挙げる。
- 25 屢困難が待ち受けていた。
- 26 ゴミの山が堆く積まれる。
- 27 岨道を慎重に通り抜ける。
- 28 勇名は夙に知られていた。
- 29 決戦の時が愈迫る。
- 30 斯くの如き事態を招く。

2 次の傍線部分は常用漢字である。
その表外の読みをひらがなで記せ。

(10)
1×10

- 1 狙いは尽く的中した。
- 2 よって件の如し。
- 3 原本と抜き出した文を校べる。
- 4 普段と違って淑やかに見える。
- 5 ご助力をいただき誠に辱い。
- 6 覚えのないことで詰られた。
- 7 祖母は今年八月で齒九十だ。
- 8 悪事が露見して進退谷まった。
- 9 真珠擬の宝石を売りつける。
- 10 映画の内容を具に語る。

3 次の熟語の読み(音読み)と、その
語義にふさわしい訓読みを(送り
がなに注意して) ひらがなで記せ。

(10)
1×10

【例】 健勝…勝れる ↓ けんしょう
すぐ

- ア 1 謬説 …… 2 謬る
- イ 3 凋零 …… 4 凋む
- ウ 5 進捗 …… 6 捗る
- エ 7 騷擾 …… 8 擾れる
- オ 9 疎水 …… 10 疎る
- 4 次の各組の二文の()には共通す
る漢字が入る。その読みを後の□
から選び、常用漢字(二字)で記せ。

(10)
2×5

- 1 味方の間で符(1)を決めておく。
この本は乱(1)が目立つ。
- 2 あまりにも苛(2)な仕打ちだ。
農民は(2)税に苦しむ。
- 3 反乱軍は武器を捨てて(3)順した。
動物としての(3)巢本能。
- 4 民衆の広(4)な支持を得る。
行動の規(4)となる条文をつくる。
- 5 どんな人とも(5)謙な態度で接する。
お心配り(5)悦至極に存じます。

5 次の傍線部分のカタカナを漢字で記
せ。

(40)
2×10

- 1 カイジユウな翻訳は好まれない。
- 2 今年はカニの豊漁が期待できる。
- 3 午前中は里にカスミがかかる。
- 4 コソクな手段で生き残りをはかる。
- 5 敵の内部をカクランする。
- 6 枯れかけた植物がソセイする。
- 7 この職はヨロクに与ることが多い。
- 8 上流社会のバンサン会に参加する。
- 9 二日ぶりにケイバクを解かれる。
- 10 カバンに大切な書類を入れる。
- 11 芸能人の醜聞がメディアをニギわす。
- 12 十七歳まで両親のヒゴを受けて育つ。
- 13 誰にもわかるホラを吹く。
- 14 歴代の会長がセイゾロいした。
- 15 過去の作品をリヨウガする。
- 16 ギキョウシンから手助けする。
- 17 材木をノコギリで引く。
- 18 映画はモノスゴク臨場感があつた。
- 19 大会は4年ごとにカイサイされる。
- 20 優勝の知らせにカイサイを叫ぶ。

6 次の各文にまちがって使われている同じ音訓の漢字が一字ある。上に誤字を、下に正しい漢字を記せ。(10) 2×5

- 1 利益を得ることのみに汲々とし、出世に糠泥していた自分を猛省したい。
- 2 小さな勘違いから旦を発した事件が、世界を二分する紛擾にまで拡大した。
- 3 人気の携帯電話の新機種が発売されると、僅かな期間で市場を席巻した。
- 4 精密機器の製造で嘗て世界を牽引したが現在は他国の後陣を拝している。
- 5 昔畏怖と数敬の対象であった神聖な山岳が、開発と伐採により激減した。
- 7 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。(30)

問1 次の四字熟語の(1～10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二文字で記せ。(20) 2×10

(1)	(一触)	前途	(6)
(2)	(浮木)	紫電	(7)
(3)	(妖怪)	長汀	(8)
(4)	(三遷)	門前	(9)
(5)	(叫喚)	鼓腹	(10)

あび・いっせん・がいしゅう・きよくほ・げきじょう・こり・じやくら・もうき・もつば・りようえん

問2 次の1～5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10) 2×5

- 1 うろたえ、あわてふためくこと。
- 2 つまらない物も役立つことがある。
- 3 都合のよいようにこじつけること。
- 4 歳月が慌ただしく過ぎ去ること。
- 5 行動や運命を共にすること。

一蓮托生・土崩瓦解・竹頭木屑・掩耳盗鐘・周章狼狽・牽強附会・烏飛兔走・泰山梁木

8 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。(20) 2×10

対義語

類義語

1 礼讃	6 忽如
2 熟視	7 消長
3 会心	8 窮乏
4 強靱	9 急逝
5 永住	10 吉兆

いちべつ・かぐう・がぜん・しょうずい・ぜいじやく・つうこん・とんし・ひっぱく・ふちん・ぼうとく

9 次の故事・成語・諺のカタカナの部分に漢字で記せ。(20) 2×10

- 1 コウゼンの気を養う。
- 2 ノレンに腕押し。
- 3 断じて行えばキシンも之を避く。
- 4 サギを鳥と言いくるめる。
- 5 濡れ手でアワ。
- 6 ジジヨの交わりを結ぶ。
- 7 ヒョウタン相容れず。
- 8 点滴岩をウガつ。
- 9 センダンは双葉より芳し。
- 10 蜘蛛が網を張りてホウオウを待つ。

10 文章中の傍線(1～5)のカタカナを漢字に直し、波線(A～C)の漢字の読みをひらがなで記せ。(20) 2×5 1×10

A 隴西の李徴は博學才穎、天寶の末年、若くして名を虎榜に連ね、ついで江南尉に補せられたが、性、狷介、自ら恃む所頗る厚く、賤吏に甘んずるを潔しとしなかった。いくばくもなく官を退いた後は、故山、號略にキガし、人と交を絶つて、ひたすら詩作に耽つた。下吏となつて長く膝を俗悪な大官の前に屈するよりは、詩家として名を死後百年に遺そうとしたのである。しかし、文名は容易に揚らず、生活は日を逐うて苦しくなる。李徴は漸くシヨウソウに駆られて来た。この頃から其の容貌も峭刻となり、肉落ち骨秀で、眼光のみ徒らに炯々として、かつて進士に登第した頃の豊頬の美少年の俤は、どこに求めようもない。数年の後、ヒンキユウに堪えず、妻子の衣食のために遂に節を屈して、再び東へ赴き、一方、方官吏の職を奉ずることになった。一方、之は、己の詩業に半ば絶望したためでもある。かつての同輩は既に遙か高位に進み、彼が昔、鈍物として齒牙にもかけなかったその連中の下命を拝さねばならぬことが、往年の儁才李徴の自尊心を如何に傷つけたかは、想像に難くない。彼は快々として樂しまず、狂悖の性は愈々抑え難くなった。(中島敦「山月記」より)

B 頼み難きは我が心なり、事あればたちまちに移り、事なきもまた動かんとす。生じ易きは魔の縁なり、念をほしいま、にすればたゞちに発り、念を正しうするもなお起らんとす。この故に心は大海の浪と揺ぎて定まる時なく、縁は荒野の草と萌えて尽くる期あらねば、たまたま大勇猛の意気を鼓して不退転の果報を得んとするものも、今日の縁にひかれて旧年の心を失ふ輩は、可惜舟を出して彼岸に到り得ず、憂くも道に迷いて穢土にまた還るに至る。されば心を収むるは靈地に身を實くより好きはなく、縁を遮るは浄業に思を傾くるを最も勝れたりとなす。木片の葉師、銅塊のミダは、皆これ我が心と呼ぶの設け、崇め尊まぬは烏計なるべく、高野の蘭若、比叡の仏刹、いづれか道の念を励まさばらむ、参り詣らざるは愚魯なるべし。古えの人の、麻の袂を山おろしの風にヒルガ工し、法衣の裾を野路の露に染めつ、東西に流浪し南北に行きかいて、幾千の坂に谷に走り疲れながらお辛しともせざるものは、心を靈地の靈氣に涵し念を浄業の浄味に育みて、正覚の暁を期すればなり。

(幸田露伴「二日物語」より)

● 制限時間

60分

● 合格点

160点

● 得点

点 / 200

氏 名	ふりがな	訂正 ※氏名に誤りがある場合、右上の訂正にマークし、正しい氏名を記入。	性 別	生年月日	元号は 令和…R 平成…H 昭和…S 大正…T 明治…M を記入。西暦の 場合はWとして 下2ケタを記入。	
			男	元号 年 月 日		※印字されていない場合は、の中に生年月日を記入。
			女	訂正 元号 年 月 日		※生年月日に誤りがある場合、訂正にマークし、の中に正しい生年月日を記入。
マーク記入例			○のようにをきれいにぬりつぶしてください。			

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

1読み (30)

5	4	3	2	1

4 共通の漢字 (10)

オ		エ		ウ		イ		ア	
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

3 熟語の読み・一字訓読み (10)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

2 表外の読み (10)

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

5 書き取り (40)

漢 検

準1級

模擬試験問題① 答案用紙

54321

〔問2〕
意味と読み

10987654321

〔問1〕
書き取り

7
四字熟語
(30)

54321

誤
正

6
誤字訂正
(10)

2×52×102×5

10987654321

9
故事・諺
(20)

10987654321

8
対義語・類義語
(20)

2×102×10

コケクキカオエウイア

読
み

54321

書き取り

10
文章題
(20)

1×102×5

- 注意点
- 答えはすべて答案用紙に書くこと。

• 問題についての説明はないので、問題をよく読んでから答えを書くこと。

• 答えは、必ずHB以上の濃い鉛筆かシャープペンシルで書くこと（ボールペンや万年筆などは使用不可）。

• 答えは楷書体で枠内いっぱい大きくはっきり書くこと。
特に漢字の書き取り問題では、はね・とめなどをはっきり書く。
行書体や草書体、乱雑な字は検定の対象にならない。

1 読み

各1点 計30点

- しし
- きんぼ
- ゆうぶつ
- そうく
- ちようたつ
- さくほう
- ほてん
- ねぎ
- しゅうしゅう
- えんご
- かんさ
- ちゅうたい・じゅうたい
- ふんけい
- いちゅう
- ちんじ
- とんじ
- きようりん
- そうえん
- きゆうこう
- げき
- いばら
- よしみ
- やり
- そむ(いて)
- しばしば
- うずたか(く)
- そばみち・そわみち
- つと(に)
- いよいよ
- か(く)

2 表外の読み

各1点 計10点

- ことごと(く)
- くだん
- くら(べる)
- しど(やかに)
- かたじけな(い)
- なじ(られた)
- よわい
- きわ(まった)
- もどき
- つぶさ(に)

3 熟語の読み・一字訓読み

各1点 計10点

- | | | |
|---|----|--------|
| ア | 1 | びゅうせつ |
| | 2 | あやま(る) |
| イ | 3 | ちようれい |
| | 4 | しば(む) |
| ウ | 5 | しんちよく |
| | 6 | はかど(る) |
| エ | 7 | そうじよう |
| | 8 | みだ(れる) |
| オ | 9 | そすい |
| | 10 | とお(る) |

4 共通の漢字

各2点 計10点

- | | |
|---|----------|
| 1 | 丁(符丁・乱丁) |
| 2 | 酷(苛酷・酷税) |
| 3 | 帰(帰順・帰巢) |
| 4 | 範(広範・規範) |
| 5 | 恭(恭謙・恭悦) |

5 書き取り

各2点 計40点

- | | | | |
|----|----|----|-------|
| 1 | 晦渋 | 11 | 賑(わす) |
| 2 | 蟹 | 12 | 庇護 |
| 3 | 霞 | 13 | 法螺 |
| 4 | 姑息 | 14 | 勢揃(い) |
| 5 | 攪乱 | 15 | 凌駕 |
| 6 | 蘇生 | 16 | 義侠心 |
| 7 | 余禄 | 17 | 鋸 |
| 8 | 晚餐 | 18 | 物凄(く) |
| 9 | 繫縛 | 19 | 開催 |
| 10 | 鞆 | 20 | 快哉 |

6 誤字訂正

各2点 計10点

- | | |
|---|-------------|
| 1 | 糠(泥)→拘(泥) |
| 2 | 旦→端 |
| 3 | (席)圈→(席)巻・捲 |
| 4 | (後)陣→(後)塵 |
| 5 | 数(敬)→崇(敬) |

7 四字熟語

各2点 計30点

- 〔問1〕
- | | |
|---|--------|
| 1 | 鎧袖(一触) |
| 2 | 盲亀(浮木) |

- | | |
|----|--------|
| 3 | 狐狸(妖怪) |
| 4 | 孟母(三遷) |
| 5 | 阿鼻(叫喚) |
| 6 | (前途)遼遠 |
| 7 | (紫電)一閃 |
| 8 | (長汀)曲浦 |
| 9 | (門前)雀羅 |
| 10 | (鼓腹)擊壤 |

〔問2〕

- | | |
|---|-------------|
| 1 | ろうばい(周章狼狽) |
| 2 | ぼくせつ(竹頭木屑) |
| 3 | けんきよう(牽強附会) |
| 4 | とそう(烏飛兔走) |
| 5 | いちれん(一蓮托生) |

8 対義語・類義語

各2点 計20点

- | | | | |
|---|----|----|----|
| 1 | 冒瀆 | 6 | 俄然 |
| 2 | 一瞥 | 7 | 浮沈 |
| 3 | 痛恨 | 8 | 逼迫 |
| 4 | 脆弱 | 9 | 頓死 |
| 5 | 仮寓 | 10 | 祥瑞 |

9 故事・諺

各2点 計20点

- | | | | |
|---|----|----|------|
| 1 | 浩然 | 6 | 爾汝 |
| 2 | 暖簾 | 7 | 氷炭 |
| 3 | 鬼神 | 8 | 穿(つ) |
| 4 | 鷺 | 9 | 梅檀 |
| 5 | 粟 | 10 | 鳳凰 |

10 文章題

〔書き取り〕

各2点 計10点

- | | | | |
|---|----|---|------|
| 1 | 帰臥 | 4 | 弥陀 |
| 2 | 焦燥 | 5 | 翻(し) |
| 3 | 貧窮 | | |

〔読み〕

各1点 計10点

- | | | | |
|---|---------|---|-------|
| ア | たの(む) | カ | かた(く) |
| イ | す(ぶ(る)) | キ | こ(して) |
| ウ | ふけ(った) | ク | あたら |
| エ | ようや(く) | ケ | えど |
| オ | おもかけ | コ | あが(め) |

1 次の傍線部分の読みをひらがなで
記せ。1～20は音読み、21～30は訓
読みである。

(30)
1×30

- 1 弥縫策を講じたが無駄だった。
- 2 未完の稗史が見つかった。
- 3 律詩の頸聯は後聯ともいう。
- 4 猛暑のため甜菜の育ちが悪い。
- 5 変わり果てた姿に憐情を催す。
- 6 本尊を厨子に安置する。
- 7 どうしても些事が気になる。
- 8 彼は牝牡の別を見分ける名人だ。
- 9 古諺の意味を研究する。
- 10 何度も叩扉して面会を請う。
- 11 郁郁たる花を愛でる。
- 12 師のもとに学問の藪沢をなす。
- 13 壁に大きな鉢を懸吊する。
- 14 辛酉の年に政変は起きた。
- 15 狙公が橡の実を配る。
- 16 秃筆を最後まで使う。
- 17 君子以て自彊して息まず。
- 18 その家から砧声が聞こえる。
- 19 巽与の言は能く説くこと無からんや。
- 20 芝蘭は深林に生ず。
- 21 疲労が澱のように溜まる。
- 22 気持ちが悪くそうになる。
- 23 海辺の苫屋に泊まる。
- 24 病気が全身を蝕んだ。
- 25 それは恰も巨大な蟻だった。
- 26 風が強いので蒨をおろす。
- 27 雪道を藁履で歩いた。
- 28 宿の庭に茂る八重葎を見る。
- 29 周の衰うるを見て迺ち遂に去る。
- 30 我童蒙に求むるに匪ず。

2 次の傍線部分は常用漢字である。
その表外の読みをひらがなで記せ。

(10)
1×10

- 1 事故の原因を詳らかにする。
- 2 目標達成に与って力があつた。
- 3 仕事が終わって部下を労う。
- 4 ほんの些細なことも論う。
- 5 勉学に勤しむ日々を送る。
- 6 日が暮れ、剩え雪も降ってきた。
- 7 内部事情に委しい人を探す。
- 8 その件には頑な態度を貫く。
- 9 古希に因んだ贈り物を買う。
- 10 成人式に騒ぐ族を注意する。

3 次の熟語の読み(音読み)と、その
語義にふさわしい訓読みを(送り
がなに注意して) ひらがなで記せ。

(10)
1×10

【例】健勝……勝れる→けんしょう
すぐ

- ア 1 允可……………2 允す
- イ 3 畢生……………4 畢わる
- ウ 5 奪掠……………6 掠める
- エ 7 瀆職……………8 瀆す
- オ 9 宮娃……………10 娃しい
- 4 次の各組の二文の()には共通す
る漢字が入る。その読みを後の□
から選び、常用漢字(二字)で記せ。

(10)
2×5

- 1 花嫁は(1)紀十八歳です。
- 御(1)情に心から感謝いたします。
- 2 軍の陣(2)を立て直す。
- 年を重ね(2)色にも衰えが見られる。
- 3 二人の仲を詮(3)する。
- (3)莫とした光景が広がる。
- 4 人の都合で低(4)したりしない。
- 肩をそびやかして(4)然と歩く。
- 5 遠路より御(5)労をおかけする。
- わずかの間に長(5)の進歩を遂げる。
- かく きょう こう さく
そく ほう よう れん

5 次の傍線部分のカタカナを漢字で記
せ。

(40)
2×10

- 1 赤字をホテンする。
- 2 マスクをしてヒマツを避ける。
- 3 女王のゲキリンに触れる。
- 4 衣類の虫除けにショウノウを使う。
- 5 ありもしないウワサを流す。
- 6 名誉と金をテンピンにかける。
- 7 ガンゾウの紙幣が発見される。
- 8 何事をするのもオツクウになる。
- 9 夜空にサンゼンと輝く星を見る。
- 10 偶然のいたずらにホンロウされる。
- 11 ドウコウが光量を加減する。
- 12 自分にとってはタカネの花だ。
- 13 僅かな失敗が事故をジャッキした。
- 14 季節のカンキツ類を好む。
- 15 ラグビーボールはダエン形だ。
- 16 何度もオクメンもなく口を出す。
- 17 毎晩酒色にタンデキする。
- 18 バーゲンの洋服を買いアサる。
- 19 彼はシイ的な行動が目余る。
- 20 人生についてシイする。

6 次の各文にまちがって使われている同じ音訓の漢字が一字ある。上に誤字を、下に正しい漢字を記せ。(10) 2×5

1 俄か雨を避けて雨宿りするうちに早くも日が落ち、湿黒の闇が迫っていた。

2 軍部では海軍と陸軍の勢力が錯綜競合し、戦争末期まで争いが続いた。

3 暗礁に乗り上げて遭難した船を、直近の港まで曳航し参橋に繫留した。

4 長年連れ添った夫婦の間にいつか危裂が入り、関係の修復は不可能だった。

5 文明開化の波が怒濤の如く押し寄せて、種種雑多な啓盲書が世に溢れた。

7 次の問1と問2の四字熟語について答えよ。(30)

〔問1〕 次の四字熟語の(1～10)に入る適切な語を後の□から選び漢字二字で記せ。(20) 2×10

(1)	奄奄	百尺	(6)
(2)	準縄	熟読	(7)
(3)	垢面	古色	(8)
(4)	一如	清濁	(9)
(5)	墨守	唇齒	(10)

かんとう・がんみ・きく・きそく・きゅうとう・けいえい・そうぜん・へいどん・ほうとう・ほしや

〔問2〕 次の1～5の解説・意味にあてはまる四字熟語を後の□から選び、その傍線部分だけの読みをひらがなで記せ。(10) 2×5

1 志を固く守って変えない。

2 見かけは立派でも実質が伴わない。

3 外見と内面がよく調和しているさま。

4 苦勞して懸命に勉学に励むこと。

5 自由自在に弁舌をふるうこと。

文質彬彬・打打発止・横説豎説・
円木警枕・金剛不壊・首鼠兩端・
羊頭狗肉・屋梁落月

8 次の1～5の対義語、6～10の類義語を後の□の中から選び、漢字で記せ。□の中の語は一度だけ使うこと。(20) 2×10

対義語

類義語

1 根幹

6 細大

2 抑止

7 股肱

3 諫言

8 危地

4 畏敬

9 経緯

5 懸絶

10 横行

ここう・こさい・せんどう・ちようりよう・ついしょう・てんまつ・はくちゅう・ふくしん・ぶべつ・まつしょう

9 次の故事・成語・諺のカタカナの部分漢字で記せ。(20) 2×10

1 紺屋のシロバカマ。

2 洛陽のシカを高める。

3 重箱の隅をヨウジでほじくる。

4 危うきことルイランの如し。

5 エンオウの契り。

6 錐のノウチュウに処るが若し。

7 ソウコウの妻は堂より下さず。

8 破れ鍋にトじ蓋。

9 バクギヤクの友。

10 タイカンは忠に似たり。

10 文章中の傍線(1～5)のカタカナを漢字に直し、波線(A～C)の漢字の読みをひらがなで記せ。(20) 2×5 1×10

A 余はモコたる功名の念と、檢束に慣れたる勉強力とを持ちて、忽ちこの欧羅巴の新大都の中央に立てり。何等の光彩ぞ、我目を射むとするは。何等の色沢ぞ、我心を迷わさむとするは。ポダイジユ下と訳するとき、幽静なる境なるべく思われるれど、この大道髪(みちのうけ)の如きウンテル・デン・リンデンに来て両辺なる石だ、みの人道を行く隊々の士女を見よ。胸張り肩聳えたる士官の、まだ維廉一世の街に臨める意に倚り玉う頃なりければ、様々の色に飾り成したる礼装をなしたる、妍き少女の巴里まねびの粧(まけ)いたる、彼もこれも目を驚かさぬはなきに、車道の土瀝青の上を音もせて走るいろいろの馬車、雲に聳ゆる楼閣の少しとぎれたる処には、晴れたる空に夕立の音を聞かせて漲り落つる噴井の水、遠く望めばブランドンブルク門を隔て、緑樹枝をさし交わしたる中より、半天に浮び出でたるガイセ[塔の神女の像、この許多の景物目睫の間に聚まりたれば、始めてこゝに來しもの、応接に違なきも宜なり。されど我胸には縦いかなる境に遊びても、あだなる美觀に心をば動さじの誓ありて、つねに我を襲う外物を遮り留めたりき。

(森鷗外「舞姫」より)

B 予が所蔵に關る、長崎耶蘇会出版の一書、題して「れげんだ・おうれあ」という。けだし、LEGENDA AUREAの意なり。されど内容は必しも、西欧のいわゆる「黄金伝説」ならず。かの土の使徒聖人が言行を録すると共に、併せて本邦西教徒が、勇猛精進の事蹟をも採録し、以て福音伝道の一たらしめんとせしものの如し。

体裁は上下二卷美濃紙摺草体交り平仮名文にして、印刷ハナハダしく鮮明を欠き、活字なりや否やを明にせず。上卷の扉には、羅甸字にて書名を横書し、その下に漢字にて「御出世以來千五百九十六年、慶長二年三月上旬鏤刻也」の二行を縦書す。年代の左右には喇叭を吹ける天使の画像あり。技巧頗る幼稚なれども、また掬すべき趣致なしとせず。下卷も扉に「五月中旬鏤刻也」の句あるを除いては、全く上卷と異同なし。

両卷とも紙数は約六十頁にして、載する所の黄金伝説は、上卷八章、下卷十章を数う。その他各卷の巻首に著者不明の序文及羅甸字を加えたる目次あり。序文は文章ガジユンならずして、間々欧文を直訳せる如き語法を交え、一見その伴天連たる西人の手になりしやを疑わしむ。

(芥川龍之介「奉教人の死」より)

● 制限時間

60分

● 合格点

160点

● 得点

点 / 200

氏名	ふりがな	訂正 ※氏名に誤りがある場合、右上の訂正にマークし、正しい氏名を記入。	性別	生年月日	元号は 令和…R 平成…H 昭和…S 大正…T 明治…M を記入。西暦の 場合はWとして 下2ケタを記入。
			男	元号 ※印字されていない場合は、 中に生年月日を記入。	
			女	訂正 ※生年月日に誤りがある場合、 訂正にマークし、 正しい生年月日を記入。	
マーク記入例 ○のように「」をきれいに ぬりつぶしてください。 ○ × 「」 「」					

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

1読み (30)

5	4	3	2	1

4 共通の漢字 (10)

オ		エ		ウ		イ		ア	
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

3 熟語の読み・一字訓読み (10)

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

2 表外の読み (10)

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1

5 書き取り (40)

漢検

準1級

模擬試験問題② 答案用紙

5	4	3	2	1	〔問2〕 意味と読み	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	〔問1〕 書き取り	7 四字熟語 (30)	5	4	3	2	1	6 誤字訂正 (10)
					2×5											2×10						2×5	

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	9 故事・諺 (20)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	8 対義語・類義語 (20)
										2×10											2×10

コ	ケ	ク	キ	カ	オ	エ	ウ	イ	ア	読み	5	4	3	2	1	書き取り	10 文章題 (20)
										1×10						2×5	

＝ 注意点 ＝

- 答えはすべて答案用紙に書くこと。
- 問題についての説明はないので、問題をよく読んでから答えを書くこと。
- 答えは、必ずHB以上の濃い鉛筆かシャープペンシルで書くこと（ボールペンや万年筆などは使用不可）。
- 答えは楷書体で枠内いっぱい大きくはっきり書くこと。
特に漢字の書き取り問題では、はね・とめなどをはっきり書く。
行書体や草書体、乱雑な字は検定の対象にならない。

1 読み

各1点・計30点

- 1 びぼうさく
- 2 はいし
- 3 けいれん
- 4 てんさい
- 5 れんじょう
- 6 ずし
- 7 さじ
- 8 ひんぼ
- 9 こげん
- 10 こうひ
- 11 いくいく
- 12 そうたく
- 13 けんちょう
- 14 しんゆう
- 15 そこう
- 16 とくひつ
- 17 じきよう
- 18 ちんせい
- 19 そんよ
- 20 しらん
- 21 おり
- 22 くじ(け)
- 23 とまや
- 24 むしば(んだ)
- 25 あたか(も)
- 26 しとみ
- 27 わらぐつ
- 28 やえむぐら
- 29 すなわ(ち)
- 30 あら(ず)

2 表外の読み

各1点・計10点

- 1 つまび(らかに)
- 2 あずか(って)
- 3 ねぎら(う)
- 4 あげつら(う)
- 5 いそ(しむ)
- 6 あまつさ(え)
- 7 くわ(しい)
- 8 かたく(な)
- 9 ちな(んだ)
- 10 やから

3 熟語の読み・一字訓読み

各1点・計10点

- | | |
|------------|---------|
| ア | 1 いんか |
| 2 ゆる(す) | |
| イ | 3 ひつせい |
| 4 お(わる) | |
| ウ | 5 だつりやく |
| 6 かす(める) | |
| エ | 7 とくしよく |
| 8 けが(す) | |
| オ | 9 きゆうあい |
| 10 うつく(しい) | |

4 共通の漢字

各2点・計10点

- | |
|------------|
| 1 芳(芳紀・芳情) |
| 2 容(陣容・容色) |
| 3 索(詮索・索莫) |
| 4 昂(低昂・昂然) |
| 5 足(足労・長足) |

5 書き取り

各2点・計40点

- | | |
|-------|---------|
| 1 補填 | 11 瞳孔 |
| 2 飛沫 | 12 高嶺 |
| 3 逆鱗 | 13 惹起 |
| 4 樟脳 | 14 柑橘 |
| 5 噂 | 15 楯円 |
| 6 天秤 | 16 臆面 |
| 7 質造 | 17 耽溺 |
| 8 億劫 | 18 漁(る) |
| 9 燦然 | 19 恣意 |
| 10 翻弄 | 20 思惟 |

6 誤字訂正

各2点・計10点

- | |
|-------------|
| 1 湿(黒)→漆(黒) |
| 2 (錯)総→(錯)綜 |
| 3 参(橋)→栈(橋) |
| 4 危(裂)→亀(裂) |
| 5 (啓)盲→(啓)蒙 |

7 四字熟語

各2点・計30点

- 〔問1〕
- | |
|----------|
| 1 氣息(奄奄) |
| 2 規矩(準繩) |

- | |
|-------------|
| 3 蓬頭(垢面) |
| 4 形影(一如) |
| 5 旧套(墨守) |
| 6 (百尺)竿頭 |
| 7 (熟読)玩味・翫味 |
| 8 (古色)蒼然 |
| 9 (清濁)併吞 |
| 10 (唇齒)輔車 |

〔問2〕

- | |
|--------------|
| 1 ふえ(金剛不壊) |
| 2 くにく(羊頭狗肉) |
| 3 ひんぴん(文質彬彬) |
| 4 けいちん(円木警枕) |
| 5 じゅせつ(横説豎説) |

8 対義語・類義語

各2点・計20点

- | | |
|---------|-------|
| 1 末梢 | 6 巨細 |
| 2 煽動・扇動 | 7 腹心 |
| 3 追従 | 8 虎口 |
| 4 侮蔑 | 9 顛末 |
| 5 伯仲 | 10 跳梁 |

9 故事・諺

各2点・計20点

- | | |
|---------|----------|
| 1 白袴 | 6 囊中 |
| 2 紙価 | 7 糟糠 |
| 3 楊枝・楊子 | 8 綴(じ) |
| 4 累卵 | 9 莫逆 |
| 5 鴛鴦 | 10 大姦・大奸 |

10 文章題

〔書き取り〕

各2点・計10点

- | | |
|----------|---------|
| 1 模糊(たる) | 4 甚(しく) |
| 2 菩提樹 | 5 雅馴 |
| 3 凱旋 | |

〔読み〕

各1点・計10点

- | | |
|----------|----------|
| ア たちま(ち) | カ あわ(せて) |
| イ のぞ(める) | キ しょうじん |
| ウ よそお(い) | ク すこぶ(る) |
| エ あまた | ケ きく |
| オ むべ(なり) | コ の(する) |